

# 都市飲料水開発計画

## 実施地域

モニワ、パコック、イエナンジョン、マグウェ、タウンドウィンジー、シュウエポー、ターズイー、ピョーヴェ、ヤメティン、ピンマナ、ピー



## 1. プロジェクト要請の背景

ミャンマー中部の乾燥地域では、飲料水を初めとする生活用水が極端に不足しており、保健衛生の低下が深刻な問題となっていた。給水は都市部で部分的に実施されていたに過ぎず、財政難と人口増加によって、給水事情は悪化していた。

このような状況のもと、我が国は無償資金協力により、1981年と1985年にそれぞれ2都市、9都市を対象として地下水を利用した給水施設の整備を行った。その後、1995年度には、フォローアップとして、スパーパーツを供給した。

## 2. プロジェクトの概要

### (1) 協力期間

1981年度、1985年度  
1995年度(フォローアップ)

### (2) 援助形態

無償資金協力

### (3) 相手側実施機関

国境開発省開発局

### (4) 協力の内容

#### 1) 上位目標

11都市の住民が、健康的な生活を送ることができるようになる。

#### 2) プロジェクト目標

11都市で、水道による上水供給が可能になる。

#### 3) 成果

- a) 井戸が掘削される。
- b) 給水施設(揚水施設、貯水槽、配水施設)が整備される。
- c) 給水施設の保守管理技術が移転される。

## 4) 投入

### 日本側

E / N 供与限度額 合計 35.20 億円  
部品供与 0.17 億円(フォローアップ)

### ミャンマー側

土地  
ローカルコスト

## 3. 調査団構成

JICA ミャンマー事務所

(現地コンサルタント: Soe Oo 氏に委託)

## 4. 調査団派遣期間(調査実施時期)

1998年10月～1999年1月

## 5. 評価結果

### (1) 効率性

本プロジェクトにおいて、ミャンマー側は最も熟練した技術者を各省庁から集め、日本の業者からの技術の習得に努めたことにより、日本側からミャンマー側に井戸掘りや施設管理の技術が正確に移転され、建設工事は円滑に実施された。

また、本プロジェクトは、1981年度の2都市の後に1985年度の9都市という順で、段階的に実施されたが、これは、2都市での協力の有効性を確認・吟味したうえで、さらに9都市での協力へと展開されたものであり、適切な方法であった。

### (2) 目標達成度

ミャンマー中部の乾燥地域とその周辺地域の深刻な水不足に直面する11地方都市で、井戸水を水源とする上水供給システムが完成した。その結果、約69万

人の地域住民が安全な水を豊富に利用できるようになっており、目標は達成された。

### (3) 効果

安全で衛生的な水を利用することができるようになり、住民の保健衛生が改善され、労働生産性も増進した。

### (4) 計画の妥当性

清潔な水の確保は、人間の生活に不可欠なものである。このため、本プロジェクトにおいて整備された給水施設は住民によって今後も有効に利用されていくことが予想され、高い妥当性を有しているといえる。

### (5) 自立発展性

国境開発省開発局及び各市の開発委員会には、給水施設を保守・管理するための資金と人材が確保されており、老朽化した機材の部品の交換に苦心しつつも、すべての給水施設が稼働している。

ミャンマーの人々は「勤勉さを尊ぶ」という、日本人と共通する文化的背景を持っているため、機材を丁寧に扱うという心配りを含め、日本的な保守・管理の方法がミャンマー側に移転され、さらに継承されている。

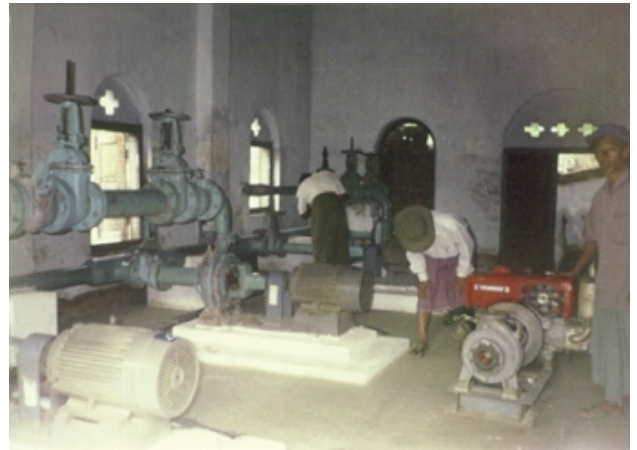
しかし、整備された機材や施設は老朽化が激しく、また不安定な電力供給による揚水ポンプの故障が多発しているため、ミャンマー政府及び地元住民は、スペアパーツの入手に苦心している。

## 6. 教訓・提言

### (1) 提言

本プロジェクトは、実施段階で円滑に業務が遂行され、ミャンマー側への引渡し後も成果が継続されているが、機材の老朽化と、不安定な電力供給による揚水ポンプの頻繁な故障が問題となっている。

これらの施設・機材を保守・管理するにはスペアパーツが必要であるが、ミャンマー側には十分な資金がないため、再度フォローアップによるスペアパーツの供与を検討することが望ましい。



ポンプ小屋に設置されたプースターポンプ



湖からの取水口